

I 家庭での生活について

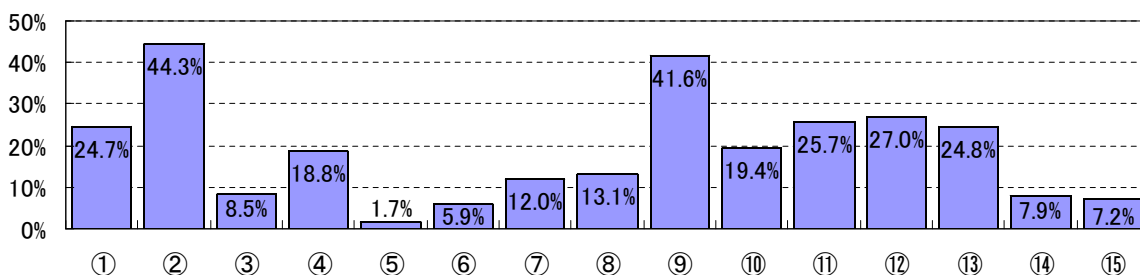
1 下校後の生活（時間の使い方）

下校後の過ごし方として、「学習塾に行く」と答えた生徒が44.3%と最も多く、次に「テレビ・DVDなどを見る」生徒が41.6%である。

友人と遊ぶ時間が「全くない」と答えた生徒は60.0%である。

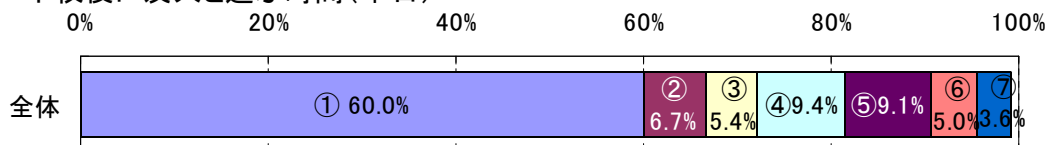
「2時間以上」テレビ・DVDなどを見ている生徒は56.2%、「1時間より少ない」（全くないを含む）生徒は17.5%である。

下校後の過ごし方（平日）

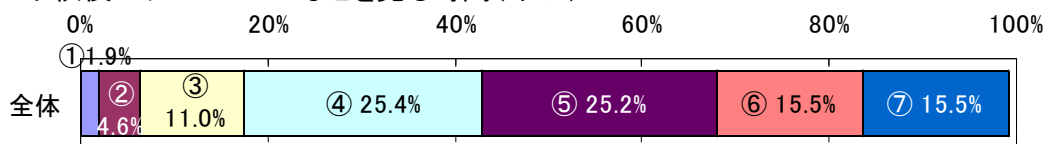


- ①家庭で勉強する ②学習塾に行く ③読書（マンガ、雑誌を除く）をする
 ④パソコンを使う ⑤民間のスポーツ施設に行く ⑥地域のスポーツクラブに行く
 ⑦自分で体を動かしたり運動したりする ⑧友人と遊ぶ ⑨テレビ・DVDなどを見る
 ⑩マンガ、雑誌を読む ⑪ゲームをする ⑫音楽を聴く ⑬携帯電話を使う
 ⑭何ともしないで、ボーっとしている ⑮その他

下校後に友人と遊ぶ時間（平日）



下校後にテレビ・DVDなどを見る時間（平日）

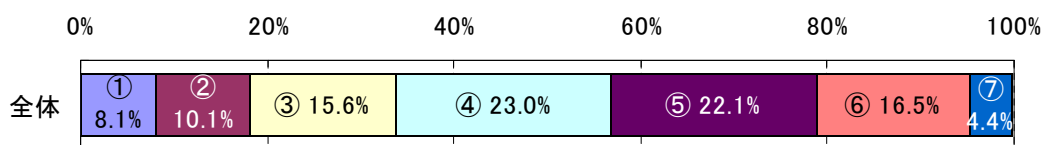


- ①全くない ②30分より少ない ③30分以上1時間より少ない
 ④1時間以上2時間より少ない ⑤2時間以上3時間より少ない
 ⑥3時間以上4時間より少ない ⑦4時間以上

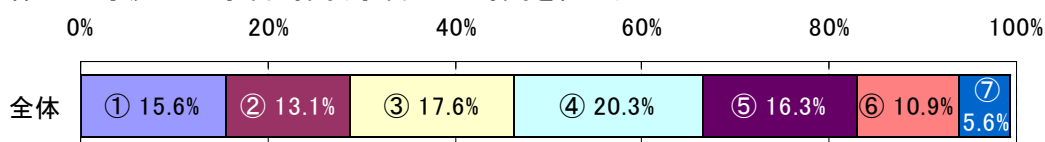
2 家庭での学習

家庭での学習時間が「全くない」と答えた生徒は平日8.1%、休日15.6%。「2時間以上」学習している生徒は平日43.0%、休日32.8%。休日の学習時間より平日の学習時間の方が多い傾向である。

平日の家庭での学習時間(学習塾の時間を含む)



休日の家庭での学習時間(学習塾の時間を含む)

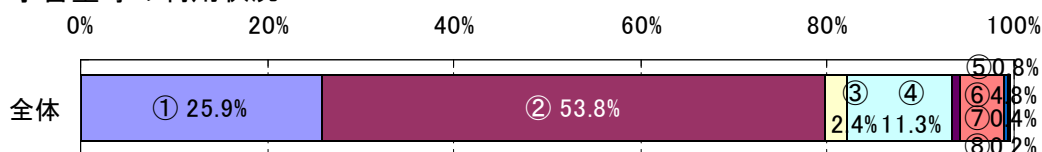


- ① 全くない ② 30分より少ない ③ 30分以上1時間より少ない
 ④ 1時間以上2時間より少ない ⑤ 2時間以上3時間より少ない ⑥ 3時間以上4時間より少ない
 ⑦ 4時間以上

3 通塾等の状況

「学習塾」に通う生徒は59.6%、「何も利用していない」生徒は25.9%である。

学習塾等の利用状況

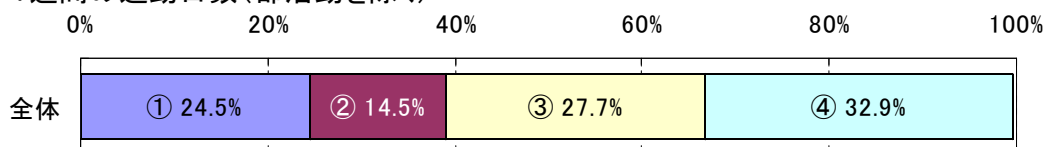


- ① 何も利用していない ② 学習塾 ③ 家庭教師 ④ 通信教育 ⑤ 学習塾と家庭教師
 ⑥ 学習塾と通信教育 ⑦ 家庭教師と通信教育 ⑧ 学習塾と家庭教師と通信教育

4 スポーツ活動

1週間の運動日数(学校での部活動を除く)は、「活動していない」生徒が最も多く32.9%、次に「1~2日」が27.7%である。また、「3日」以上活動している生徒は39.0%である。

1週間の運動日数(部活動を除く)



- ① 5日以上 ② 3~4日 ③ 1~2日 ④ 活動していない

5 携帯電話の使用

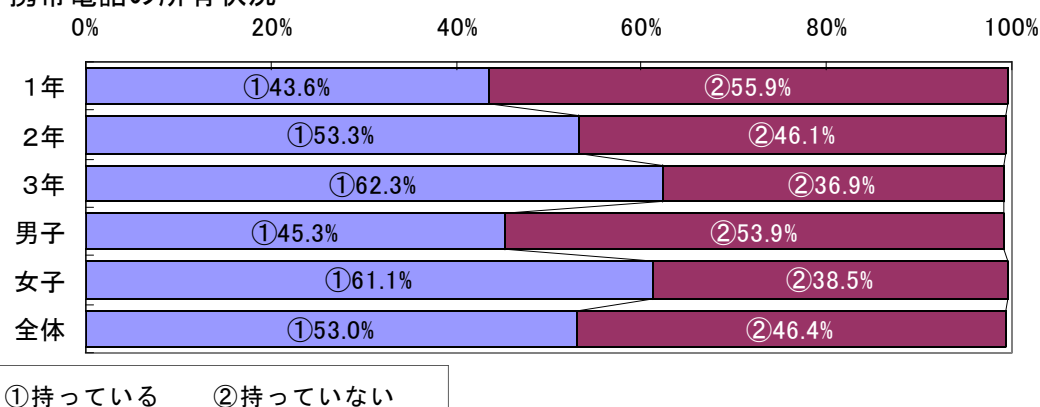
携帯電話を「持っている」生徒は53.0%で、学年別では1年が43.6%、2年が53.3%、3年が62.3%と学年が進むにしたがって所有率が増加している。また、男子の所有率は45.3%、女子は61.1%である。

平日における携帯電話の使用時間については、「ほとんど使わない」生徒は13.3%で、「1時間以上」使用している生徒は45.4%である。休日では「ほとんど使わない」生徒は12.3%で、「1時間以上」使用している生徒は51.4%であり、平日、休日とも女子の使用時間が男子より長い。

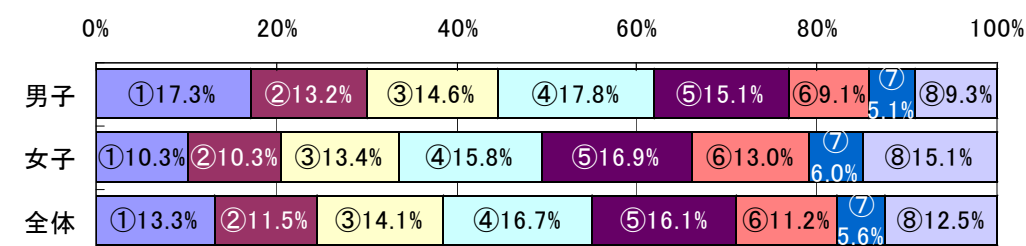
携帯電話の用途は、「友人とメールをする」と答えた生徒が85.8%と最も多く、次に「家族と電話をする」が32.3%である。学年が進むにしたがって、家族に電話をしたりメールをする割合が減少し、逆に友人への電話やメールが増加している。

男女による用途の差が最も大きいのは、男子が多い「ゲームをする」ことと、女子が多い「ブログやプロフを更新したり見たりすること」である。

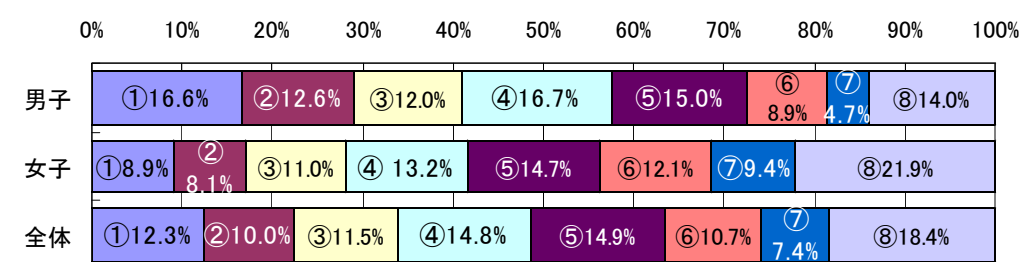
携帯電話の所有状況



携帯電話の使用時間(平日)

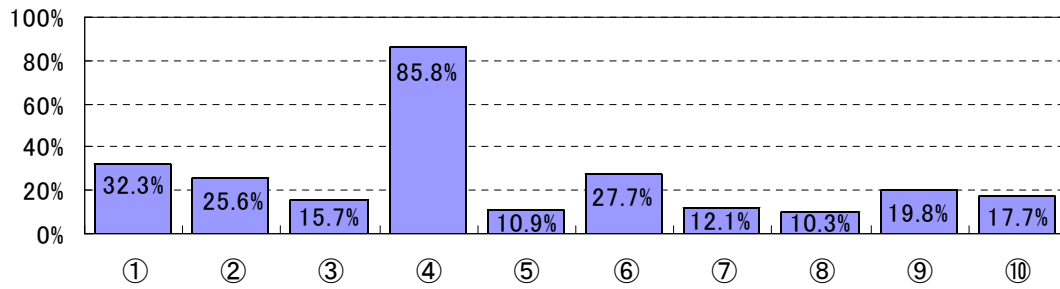


携帯電話の使用時間(休日)



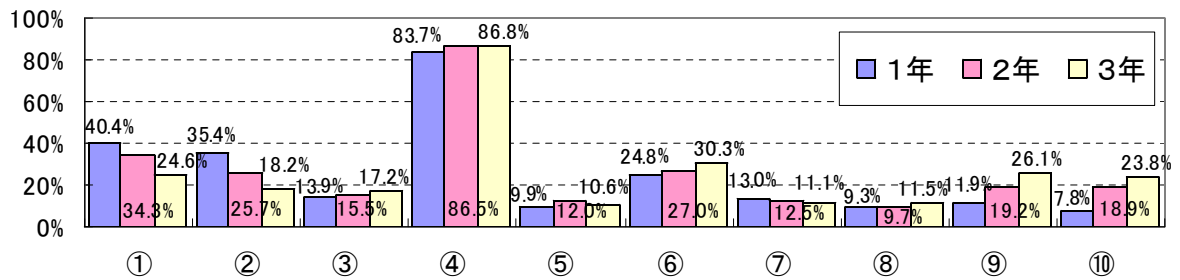
- ①ほとんど使わない ②15分より少ない ③15分以上30分より少ない
 ④30分以上1時間より少ない ⑤1時間以上2時間より少ない
 ⑥2時間以上3時間より少ない ⑦3時間以上4時間より少ない ⑧4時間以上

携帯電話の用途(全体)

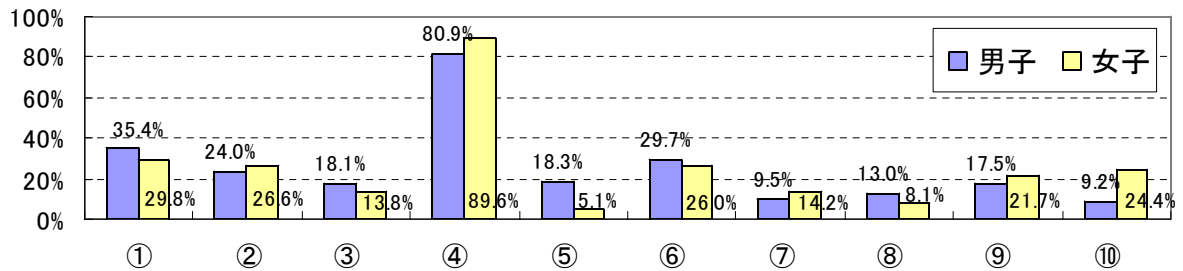


- ① 家族と電話する ② 家族とメールをする ③ 友人と電話をする ④ 友人とメールをする
 ⑤ ゲームをする ⑥ 音楽を聴く ⑦ 写真を撮る ⑧ テレビを見る ⑨ ウェブサイトを見る
 ⑩ ブログやプロフィールを更新したり見たりする

携帯電話の用途(学年別)



携帯電話の用途(男女別)



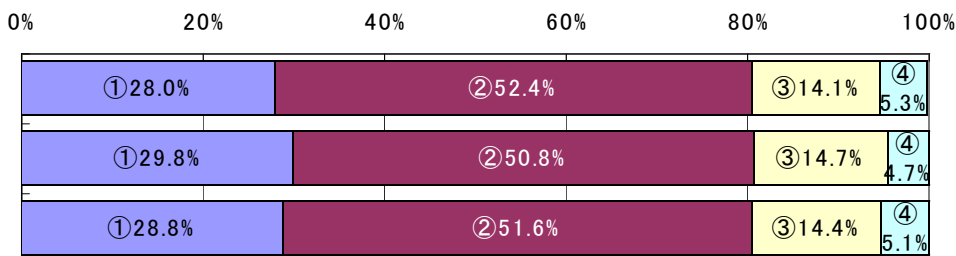
II 学校での生活について

6 学校での生活

80.4%の生徒が学校へ行くのが「楽しい」と回答。

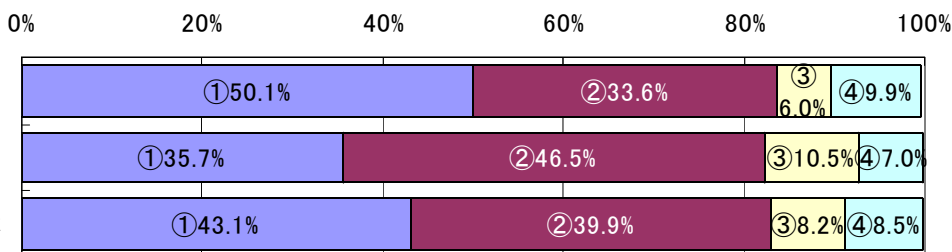
何でも話せる友人の数は、「5人以上いる」と答えた生徒が43.1%で最も多く、次に「2～4人いる」と答えたのが39.9%。「いない」と答えた生徒は8.5%である。また、「5人以上いる」と答えたのは、男子が50.1%、女子が35.7%である。

学校へ行くのが楽しいか



① とても楽しい ② 楽しい ③ あまり楽しくない ④ 楽しくない

何でも話せる友人の数

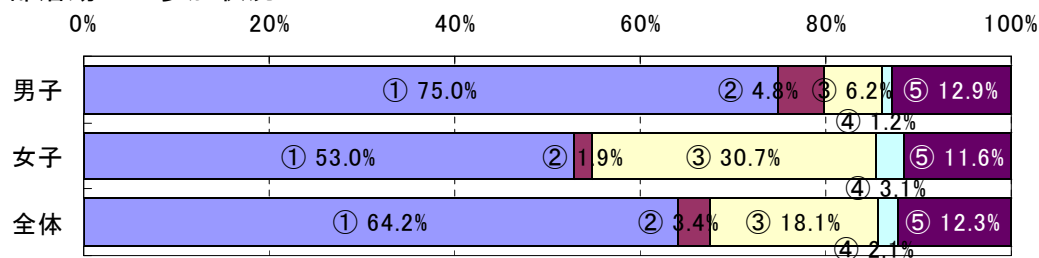


① 5人以上いる ② 2～4人いる ③ 1人いる ④ いない

7 部活動への参加状況

部活動について、「運動部に所属し活動している」生徒は64.2%、「文化部に所属し活動している」のは18.1%である。男子では「運動部に所属し活動している」生徒が75.0%であるのに対し、女子では「運動部に所属し活動している」のは53.0%で、「文化部に所属し活動している」生徒は30.7%である。

部活動への参加状況



① 運動部に所属し活動してる ② 運動部に所属しているが、あまり参加していない
 ③ 文化部に所属し活動している ④ 文化部に所属しているが、あまり参加していない
 ⑤ 所属していない

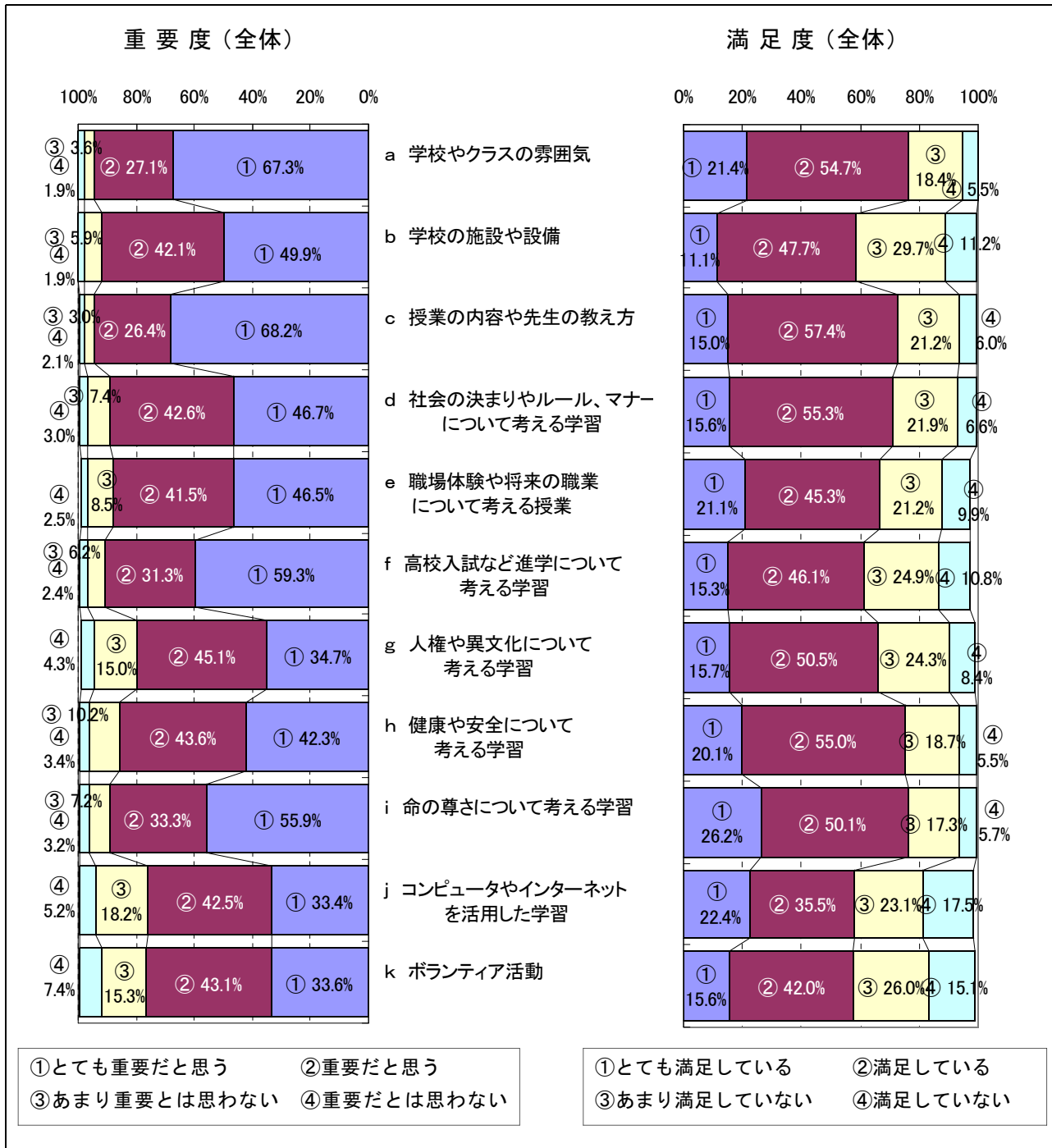
8 学校生活についての重要度と満足度

学校生活を送るうえで、最も重要だと思っているのは、「授業の内容や先生の教え方」(94.6%)で、次に「学校やクラスの雰囲気」(94.4%)、「学校の施設や設備」(92.0%)。

学校生活において、最も満足しているのは「命の尊さについて考える学習」(76.3%)、次に「学校やクラスの雰囲気」(76.1%)、「健康や安全について考える学習」(75.1%)である。

重要度・満足度をそれぞれ10点満点でポイント化したとき、重要度平均7.95に対し、満足度平均は6.24であり、全体的に満足度が低いことがうかがえる。

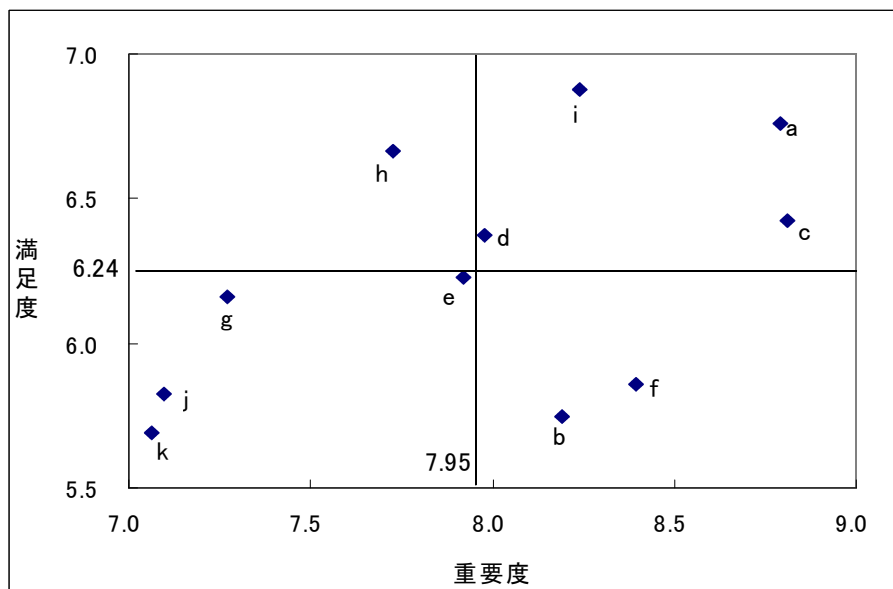
特に、重要度が高く、満足度が低いのは、「高校入試などの進学について考える学習」、「学校の施設や設備」である。



「生徒全体」の学校生活に対する満足度・重要度ポイントとニーズ得点

○満足度ポイント： 「とても満足(重要)」→10 「満足(重要)」→7
 重要度ポイント 「あまり満足していない(あまり重要とは思わない)」→4
 「満足していない(重要とは思わない)」→1 と点数化して算出
 ○ニーズ得点： 「重要度」×(11-「満足度」)により算出

	満足度ポイント	重要度ポイント	ニーズ得点
a 学校やクラスの雰囲気	6.76	8.79	37.3
b 学校の施設や設備	5.75	8.19	43.0
c 授業の内容や先生の教え方	6.43	8.81	40.3
d 社会の決まりやルール、マナーについて考える学習	6.37	7.98	36.9
e 職場体験や将来の職業について考える学習	6.23	7.92	37.8
f 高校入試など進学について考える学習	5.86	8.39	43.1
g 人権や異文化について考える学習	6.16	7.27	35.2
h 健康や安全について考える学習	6.66	7.72	33.5
i 命の尊さについて考える学習	6.88	8.24	34.0
j コンピュータやインターネットを活用した学習	5.82	7.10	36.7
k ボランティア活動	5.69	7.06	37.5
平 均	6.24	7.95	37.8



重要度が低く、満足度が高い	重要度が高く、満足度も高い
h 健康や安全について考える学習	c 授業の内容や先生の教え方 a 学校やクラスの雰囲気 i 命の尊さについて考える学習 d 社会の決まりやルール、マナーについて考える学習
重要度が低く、満足度も低い	重要度が高く、満足度が低い
e 職場体験や将来の職業について考える学習 g 人権や異文化について考える学習 j コンピュータやインターネットを活用した学習 k ボランティア活動	f 高校入試など進学について考える学習 b 学校の施設や設備

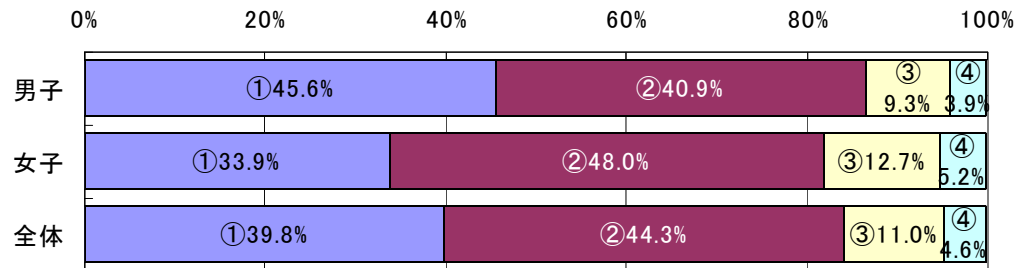
各領域での項目の順序は、重要度の高い項目を上位とした。

Ⅲ 将来の進路等について

9 自尊感情と自己有用感

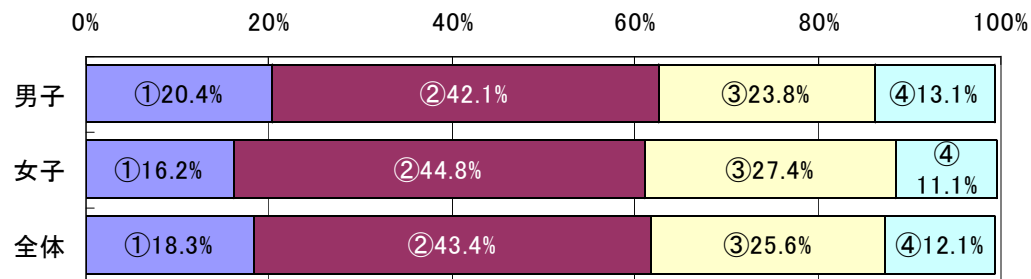
自分のことを「大切に思っている」と答えた生徒は84.1%。集団の中で役に立っていると感じるものが「ある」と答えた生徒は61.7%で、集団の中で役に立っていると感じたことが「ない」と答えたのは37.7%である。

自分のことを大切に思うか



①大切に思っている ②どちらかといえば大切に思っている
 ③どちらかといえば大切に思っていない ④大切に思っていない

集団の中で役に立っていると感じるものがあるか



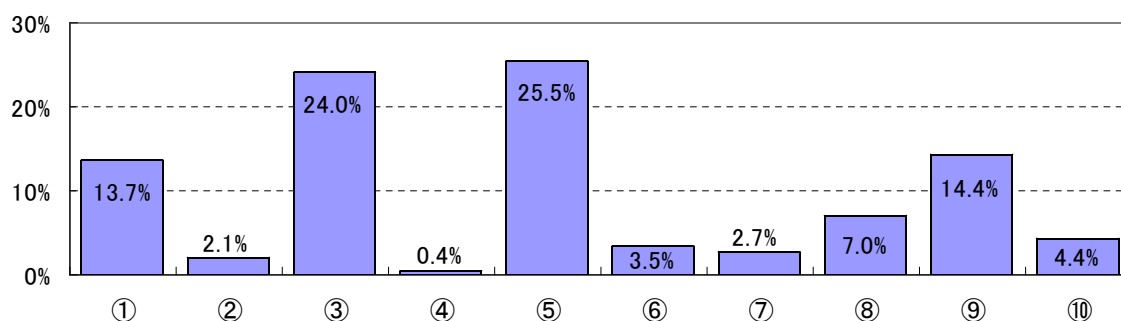
①ある ②どちらかといえばある ③どちらかといえばない ④ない

10 あこがれ・目標

「芸能人、スポーツ選手など」にあこがれ・目標にしていると答えた生徒は25.5%、「友人や先輩」と答えた生徒は24.0%である。また、「あこがれ、または目標にしている人はいない」と答えた生徒は14.4%である。

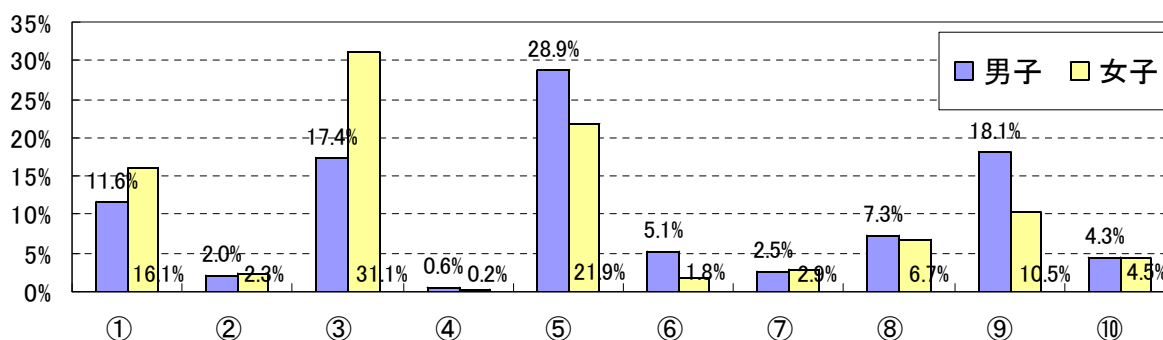
男子では「芸能人、スポーツ選手など」と答えた生徒が28.9%で最も多く、女子では「友人や先輩」と答えた生徒が31.1%で最も多い。

あこがれ、または目標にしている人物(全体)



- ①親など家族の人 ②学校の先生 ③友人や先輩 ④近所の人
 ⑤芸能人、スポーツ選手など ⑥歴史上の人物 ⑦小説やドラマの登場人物
 ⑧マンガやアニメの登場人物 ⑨あこがれ、または目標にしている人はいない ⑩その他

あこがれ、または目標にしている人物(男女別)



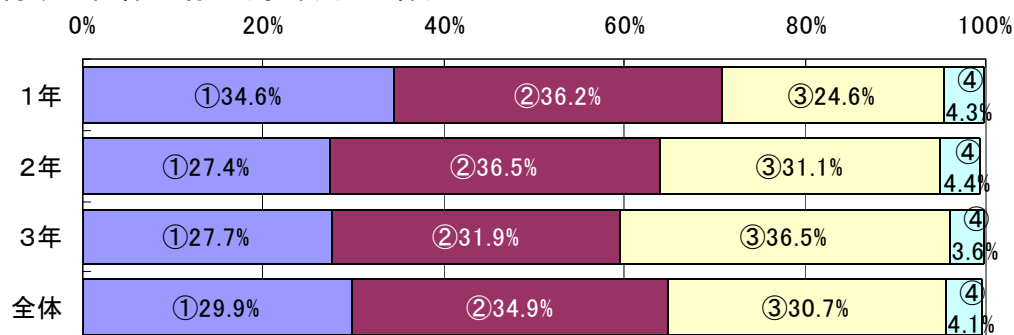
11 将来の目標・進路

「はっきりとした目標がある」と答えた生徒は29.9%、「目標が決まりつつある」は34.9%、「まだ目標が決まらない」と答えた生徒は30.7%である。

また、学年が進むにしたがって、「まだ目標が決まらない」と答える生徒の割合が増加する。

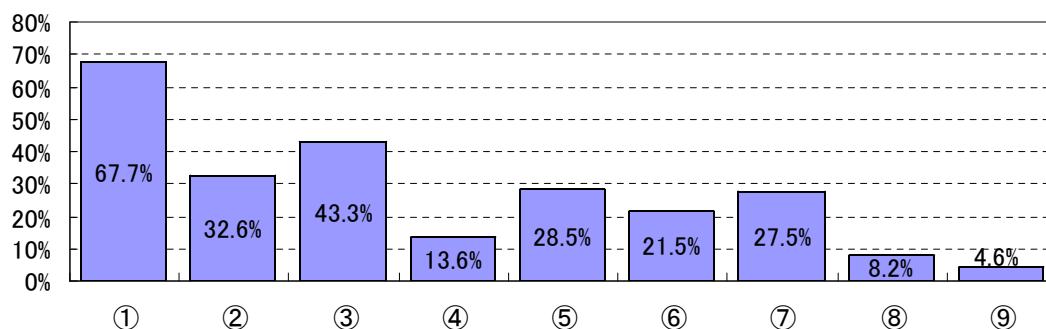
中学校卒業後の進路を考えるときに重視することとして、「自分の成績」と答えた生徒は67.7%、「やりたい仕事との関連」は43.3%、「興味や関心」は32.6%である。

将来の目標の有無(学年別 全体)



①はっきりとした目標がある ②目標が決まりつつある ③まだ目標が決まらない
④目標について考えたことがない

卒業後の進路を考えると、重視すること



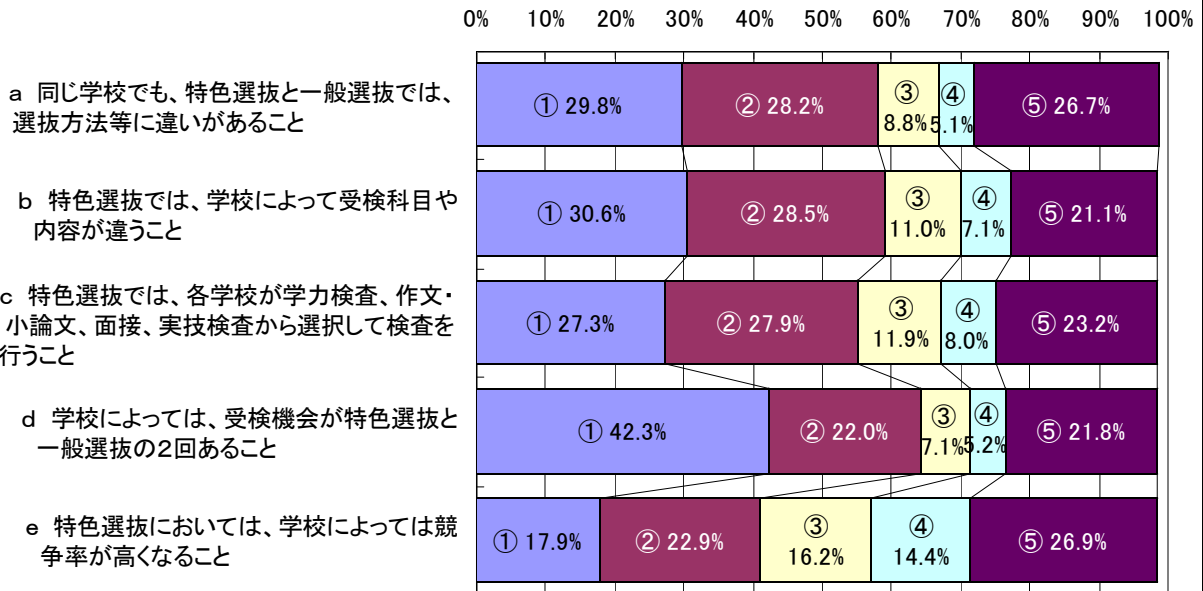
①自分の成績 ②興味や関心 ③やりたい仕事との関連 ④家庭の状況 ⑤部活動
⑥友人との関係 ⑦自宅等からの通学・通勤時間 ⑧学校や企業、事業所の評判 ⑨その他

12 高校入試

受検機会の複数化については、64.3%の生徒が「よいと思う」と回答し、選抜方法や選抜資料の多様化、選抜尺度の多元化については、約55%～60%の生徒が「よいと思う」と回答している。また、これらの設問について、学年が進むにしたがって「よいと思う」と回答する生徒が増加している。

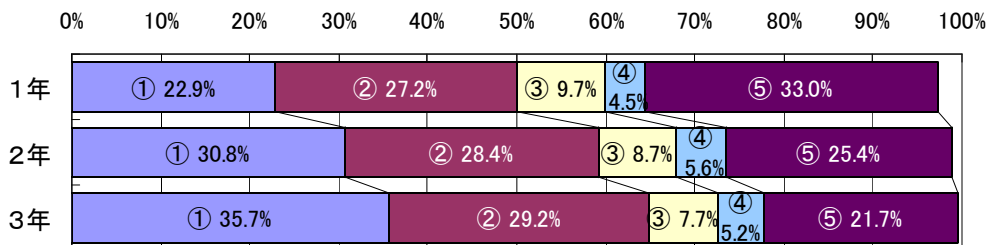
各設問に対し「わからない」と答えた生徒の割合は、1年生では約30%で、学年が進むにしたがって減少している。

特色選抜及び一般選抜についての意識

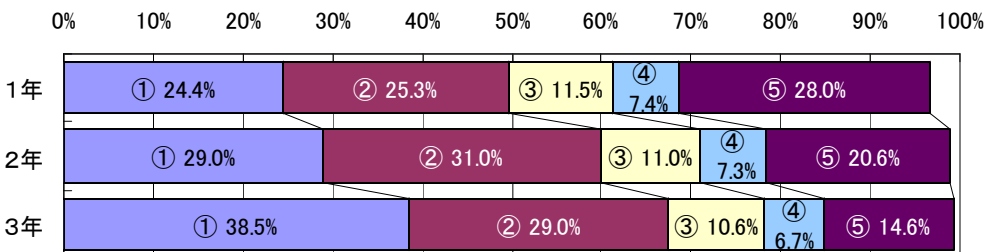


①よいと思う ②どちらかといえばよいと思う ③どちらかといえばよいと思わない
④よいと思わない ⑤わからない

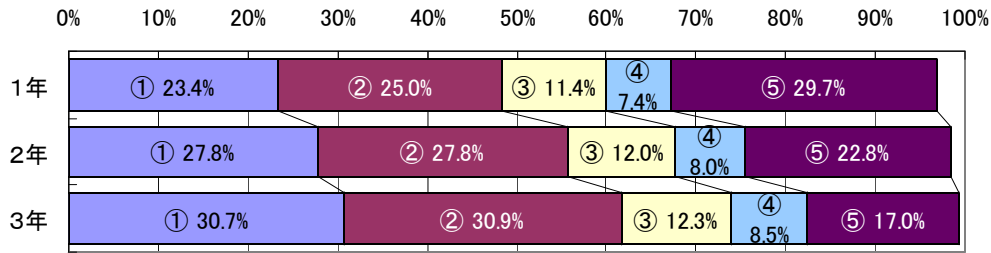
a 同じ学校でも、特色選抜と一般選抜では、選抜方法等に違いがあること



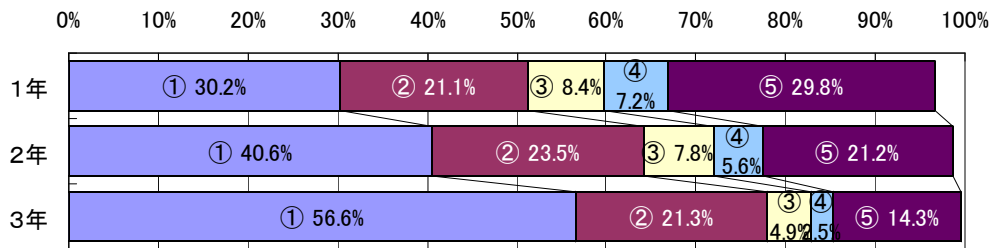
b 特色選抜では、学校によって受検科目や内容が違うこと



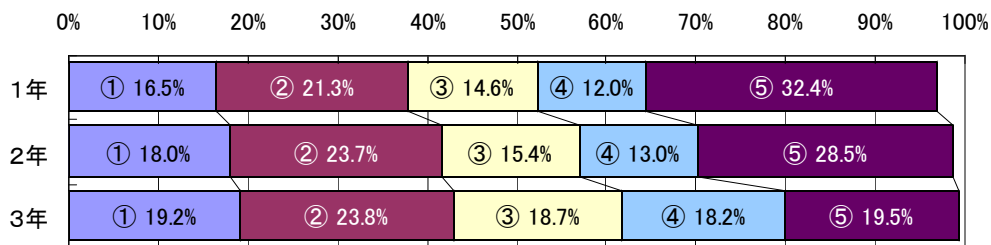
c 特色選抜では、各学校が学力検査、作文・小論文、面接、実技検査から選択して検査を行うこと



d 学校によっては、受検機会が特色選抜と一般選抜の2回あること



e 特色選抜においては、学校によっては競争率が高くなること



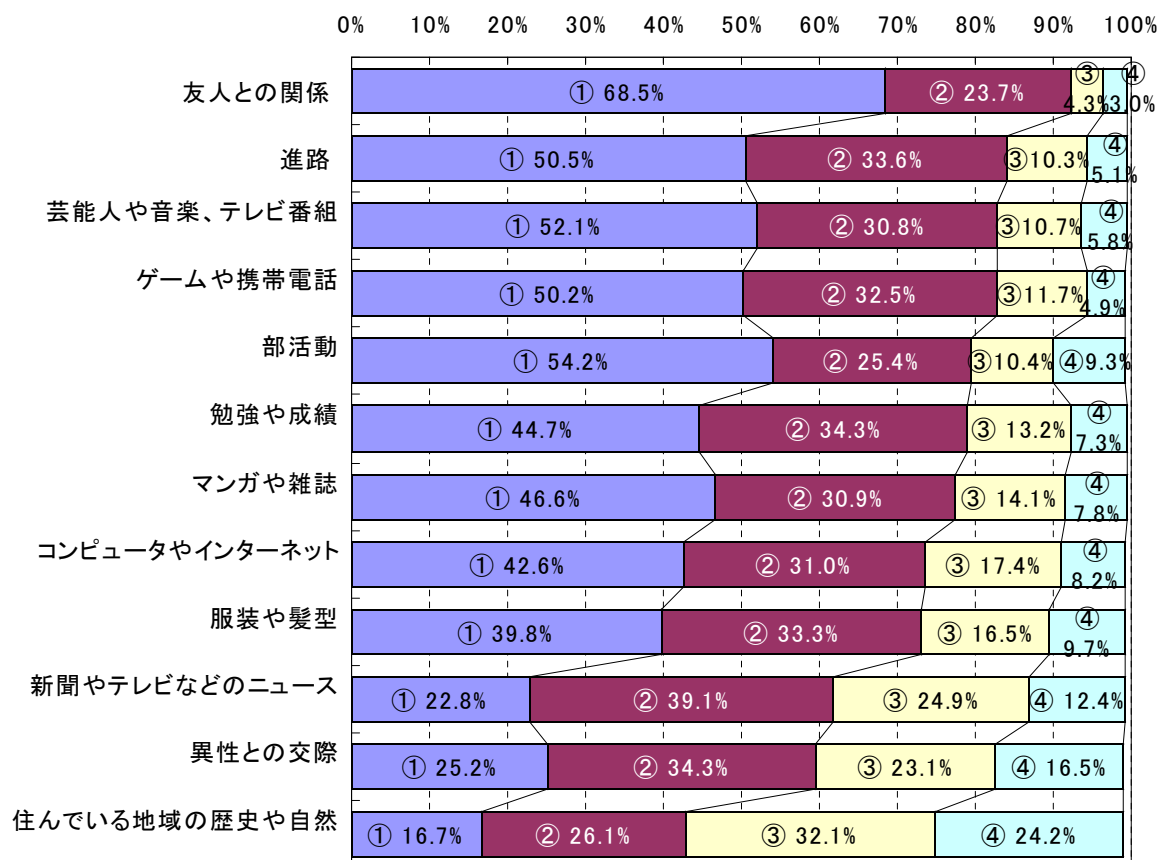
IV 社会での生活について

13 関心事

関心があることとして、「友人との関係」が最も高く92.2%である。次に「進路」(84.1%)、「芸能人や音楽、テレビ番組」(82.9%)、「ゲームや携帯電話」(82.7%)で、最も関心が低いのは、「住んでいる地域の歴史や自然」(42.8%)である。

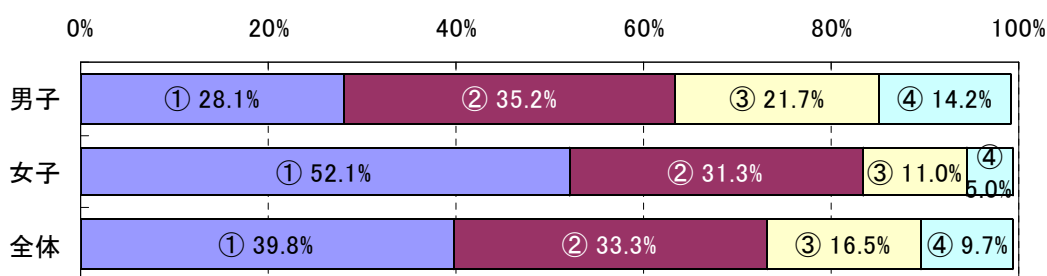
また、「服装や髪型」については、特に男女による関心の差が大きく、関心がある男子が63.3%であるに対し、女子は83.4%である。

関心のある事柄



①関心がある ②どちらかというに関心がある ③どちらかというに関心がない
④関心がない

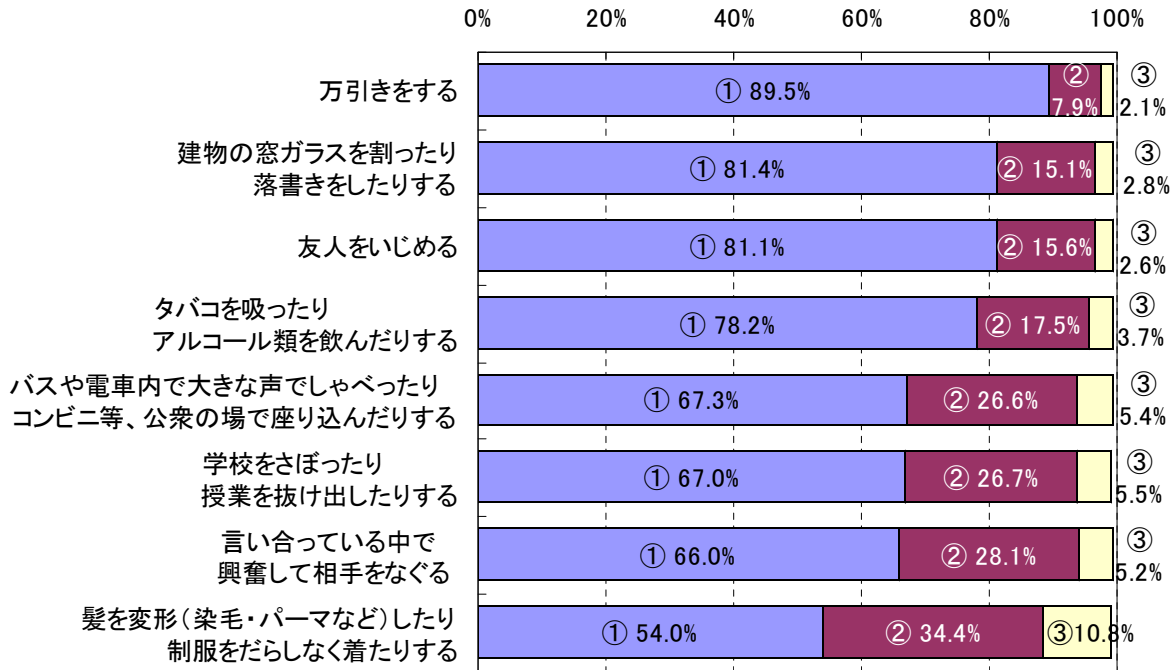
服装や髪型



14 規範意識

それぞれの項目について、「してはいけない」と答えたのは、「万引きをする」が89.5%、「建物の窓ガラスを割ったり、落書きをしたりする」が81.4%、「友人をいじめる」が81.1%である。触法行為に対する規範意識は比較的高いが、マナーや校則に対する規範意識は低い傾向がうかがえる。

規範意識

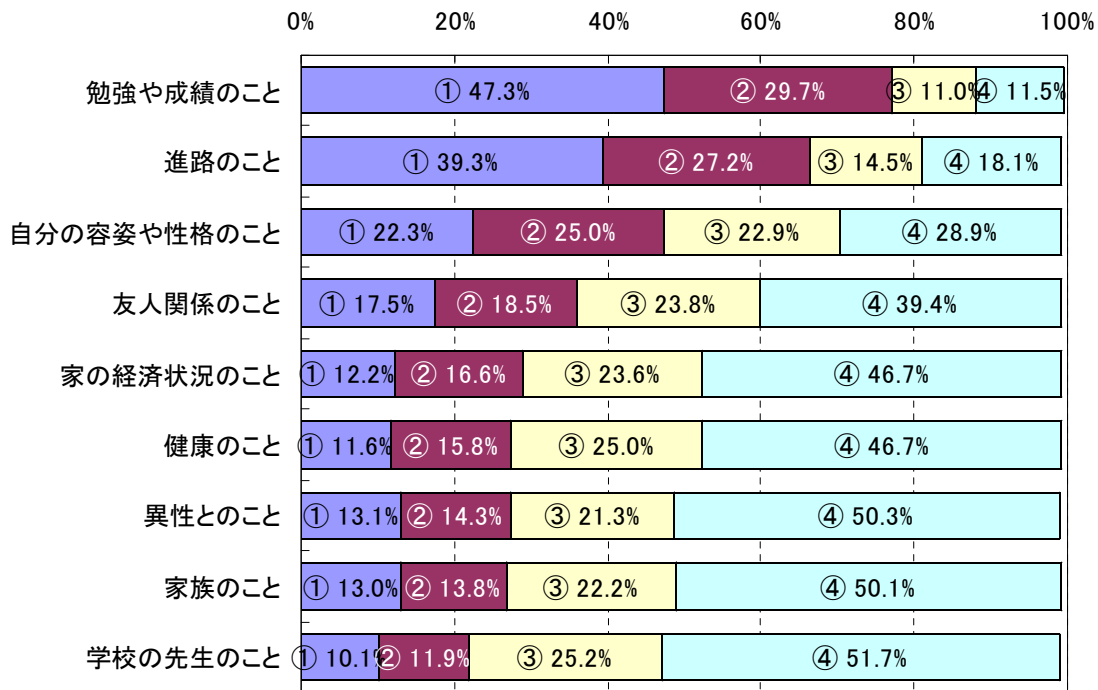


① してはいけない ② しないほうがよい ③ してもよい

15 悩んでいること

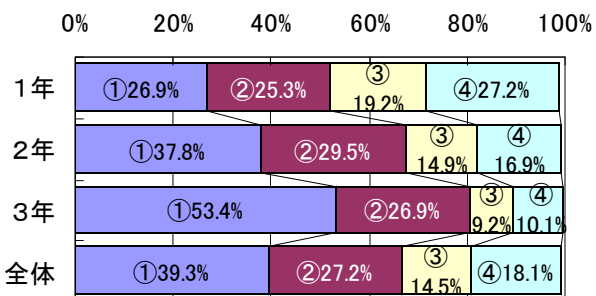
「勉強や成績のこと」を「悩んでいる」生徒が77.0%で最も多く、次に「進路のこと」が66.5%である。特に「進路のこと」については学年による差が顕著であり、1年生が52.2%、2年生が67.3%、3年生が80.3%と学年が進むにしたがって高くなっている。男女による差が大きいのは「自分の容姿や性格のこと」で、男子が38.1%、女子が57.1%である。

悩んでいる事柄の有無

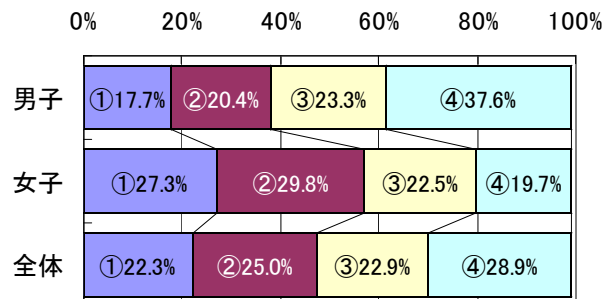


①悩んでいる ②どちらかという悩んでいる ③どちらかという悩んでいない ④悩んでいない

進路のこと



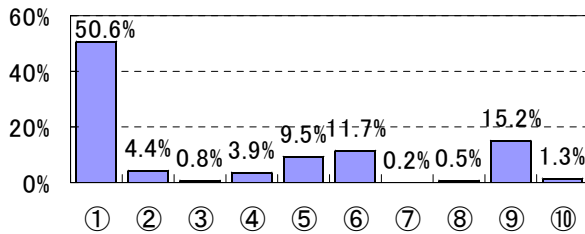
自分の容姿や性格のこと



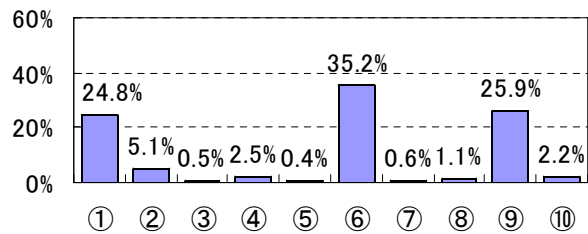
16 悩みや心配事の相談相手

「健康のこと」「進路のこと」「勉強や成績のこと」のように自分の健康や将来に関わることについては、相談相手を「親」と答えた生徒が最も多く、それぞれ56.7%、54.8%、50.6%である。また、「家の経済状況のこと」「自分の容姿や性格のこと」「家族のこと」のように個人のプライバシーに関わる度合いが強いことについては、「だれにも相談しない」が最も多く、それぞれ53.5%、42.5%、38.8%である。さらに、「友人関係のこと」「異性とのこと」「学校の先生のこと」のように人間関係に関わることでは相談相手として「友人・先輩」をはじめ、さまざまな相手を挙げている。

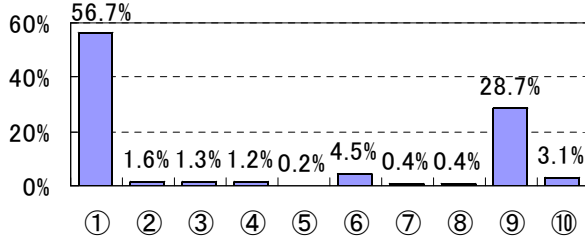
勉強や成績のこと



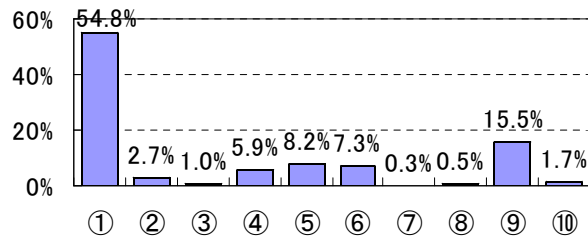
友人関係のこと



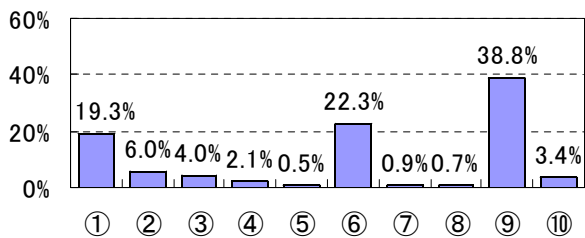
健康のこと



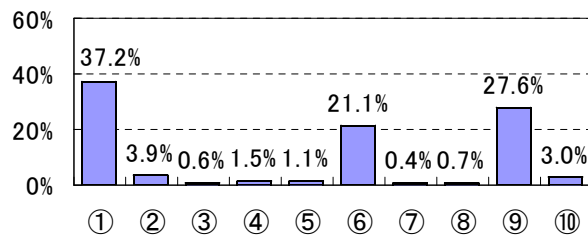
進路のこと



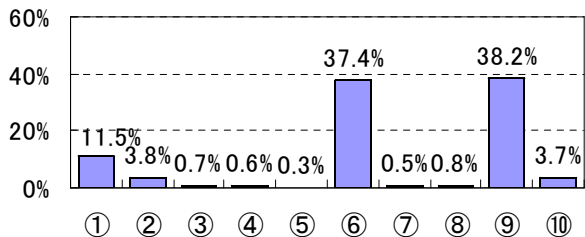
家族のこと



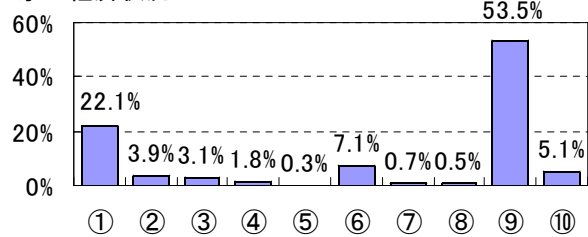
学校の先生のこと



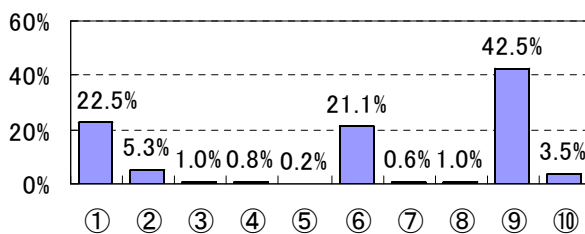
異性とのこと



家の経済状況のこと



自分の容姿や性格のこと



- ① 親 ② 兄弟姉妹 ③ 祖父母
- ④ 学校の先生 ⑤ 学習塾の先生や家庭教師
- ⑥ 友人・先輩 ⑦ カウンセラー
- ⑧ ブログで不特定多数の人
- ⑨ だれにも相談しない ⑩ その他